

# 学校と教育委員会との連携協働の構築による カリキュラムマネジメントの展開 -教育制度・組織を越える「つながり」を通して-

茂野 賢治 \*1

Development of curriculum management by building collaboration between schools and boards of education: Through "connections" that transcend educational systems and organizations

Kenji SHIGENO \*1

## Abstract

The purpose of this study is to examine the form of curriculum management through collaboration between schools and boards of education. As a result of prior research and consideration of case studies, the curriculum is based on building collaboration between the school's role of demonstrating independence in curriculum management and the role of the board of education, which encompasses the school and promotes integrated curriculum management. I found this as a way of management. Furthermore, it was suggested that the future form of collaboration in curriculum management should require practical connections with various stakeholders that go beyond educational systems and organizations.

## 1. はじめに

### (1) 目的

本稿の目的は、学校と教育委員会との連携協働によるカリキュラムマネジメント<sup>註1)</sup>のあり方を検討することである。

### (2) 教育課程とカリキュラム

まず始めに、本稿で述べるカリキュラムについて定義しておく。カリキュラムの原義は英語の「curriculum」である。そして、研究上一般的にはカリキュラムの意味は単なる日本語の「教育課程」を英訳したカリキュラム「curriculum」ではない。「教育課程」の定義については、2017 年から順次、移行が始まった現行の学習指導要領において次の記載がある。「学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画である。」(文部科学省, 2018a<sup>1)</sup>; 2018b<sup>2)</sup>; 2019<sup>3)</sup>) つまり、教育課程は、各学校が学習指導要領をもとに策定する教育計画であるといえる。

一方、根津(2019)<sup>4)</sup>は、カリキュラムとは計画段階のみならず、計画、実践、経験、結果といった側面があり、国、地方公共団体、学校、教師、児童生徒、保護者、地域関係者などの人々が関係する各水準・範囲に渡る教育課程より広義な意味で用いられることが多い概念として整理している。根津(2019)の整理をもとに、本稿では、教育課程を

より広義に捉えた意味としてカリキュラムを定義しておく。

## 2. カリキュラムマネジメント

### (1) カリキュラムマネジメント要請の経緯

本節では、カリキュラムマネジメントについて中央教育審議会答申(以後、答申と表す)の記載をもとにその経緯を探っていく。

1990 年代、地方分権・規制緩和による学校の自主性・自律性が求められるようになった。2003 年答申<sup>5)</sup>「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」では、各教育委員会等による支援等の中で校長や教員の「教育課程の開発や経営(カリキュラム・マネジメント)」の能力養成の必要性が指摘された。2008 年答申<sup>6)</sup>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においては、カリキュラム・マネジメントについて「教育課程や指導方法等を不断に見直すこと」という理解が示された。

そして、2016 年答申<sup>7)</sup>「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「カリキュラム・マネジメント」は学習指導要領の理念を実現する鍵概念と位置付けられた。この答申を基準とする 2017 年から順次始まっている現行の学習指導要領では「カリキュラム・マネジメント」の記

\*1 一般社団法人横浜すばいす 教員研修・調査研究担当理事 東京工芸大学工学部教職課程 教授

2023 年 9 月 20 日 受理

載が初めて登場した。以下、記載では「各学校においては、児童(生徒)や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと(①)、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと(②)、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと(③)

などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。」(下線と番号は筆者が加筆)とある(文部科学省, 2018a<sup>8)</sup>, p39; 2018b<sup>9)</sup>, p40; 2019<sup>10)</sup>, p45)。

このように、カリキュラムマネジメントは学校の教育課程の編成等を行う上で、学校の教育活動の質向上を図る重要な役割を担うといえる。

## (2) カリキュラムマネジメントの二つの方向

石井(2020)<sup>11)</sup>は、今後のカリキュラムマネジメントについて、相克する二つの方向があることを指摘する。それらの方向とは、市場化原理へ向かう新自由主義の方向とそれへの対抗軸を模索する方向であるという(図1)。

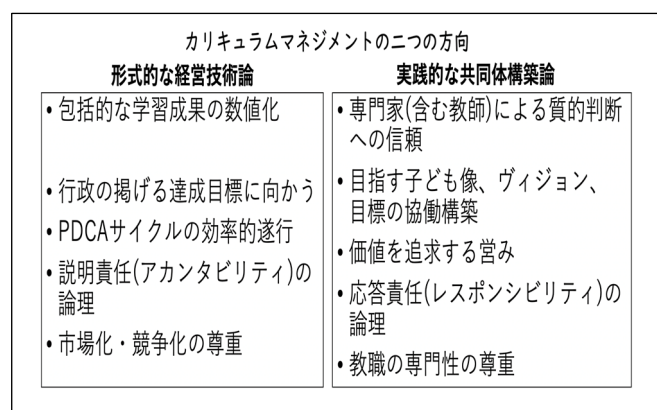


図1:二つの相克するカリキュラムマネジメントの方向性  
出典:石井(2020)より、図は筆者が作成

本稿では、上述した後者の方向を基調に、学校と教育委員会の連携協働によるカリキュラムマネジメントのあり方について、次章以降にて論を進めていく。

## 3. カリキュラムマネジメントにおける学校と教育委員会の役割

本章では、カリキュラムマネジメントにおける学校、教育委員会それぞれの役割及びその二つの組織の連携協働を考察していく。

### (1) カリキュラムマネジメントにおける学校の役割

学習指導要領に記載されているように、そもそも学校は、自校の教育課程の編成を行う必要がある(文部科学省, 2018a<sup>12)</sup>; 2018b<sup>13)</sup>; 2019<sup>14)</sup>)。また、前章で述べたように各学校は、カリキュラムマネジメントの一環として自校の教育課程の編成を行う必要がある。従って、カリキュラムマネジ

メントにおける学校の役割は、上述した学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの記載の一節と合わせると、カリキュラムマネジメントを行う主体としての役割があるといえる。つまり、教育課程の編成の主体である学校は、教育課程に関する国や教育委員会の基準を踏まえ、以下の三つの側面に配慮し、カリキュラムマネジメントを行う主体の役割である。

①教科横断的な視点での教育内容の組み立て

②実施状況の評価、改善

③実施に必要な人的又は物的な体制の確保と改善

また、各学校が、カリキュラムマネジメントを主体として行う意義は、自校と地域を実態把握し、教育課程の編成、実施、評価、及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にし、それらを教職員間で共有して改善を行うことにより、学校教育の質を図る主体となりうる点にあるといえる。

### (2) 学校におけるカリキュラムマネジメントの方法

高階(2005)<sup>15)</sup>は、カリキュラムマネジメントを行う一つの方法として、多くの学校では現在、目標管理型のPDCAサイクルを基調とするものが主流となっていることを指摘する。高階(2005)はRV-PDCAサイクルを基調としたカリキュラムマネジメントの学校経営の視点からその有効性を説明する(図2)。例えば、カリキュラムマネジメントの一つの方法として、地域や子どもの実態を踏まえ、学校の教育目標を設定、指導・評価計画を作成し、実際に授業や活動を行い、子どもや保護者の授業アンケートから継続、改善、修正などを次の取り組みに向けて行なっていくというものである。

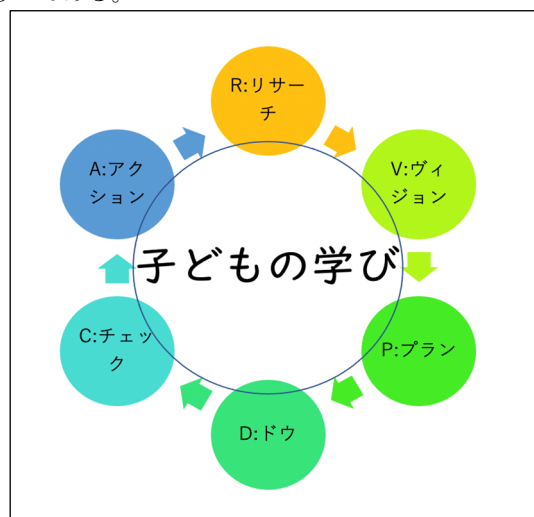


図2:子どもの学びを核にしたRV-PDCAサイクル  
出典: 高階(2005)より、図は筆者が作成

また、田村(2022)<sup>16)</sup>は、カリキュラムマネジメントを子どもの学びに着目して、そこを起点に、授業や指導計画をより適切かつ効果的なものにするためには、どうすれば良いかと創造していく取り組みの総体としている。カリキュラムマネジメントにおける学校の役割を子どもの学びのマネジメントを不断に行なっていく営みとしている。

### (3) カリキュラムマネジメントにおける教育委員会の役割

そもそも、教育委員会は所管する各学校の主体的・自律的な学校経営を規定・指導・支援を行う役割があり、教育課程の編成などカリキュラムマネジメントについても同様な役割があるといえる。つまり、教育課程の編成など、学校を主体とするカリキュラムマネジメントは、教育行政による規定、指導、支援の影響下にある。その影響とは、法令、学習指導要領、学校管理規則、予算、人的・物的・情勢的条件整備、行政研修、指導主事等による指導・助言・援助が該当する。つまり、各学校が主体的にカリキュラムマネジメントを行えるよう規定・指導・支援する役割が教育委員会にはある。

### (4) 教育委員会による学校に対するカリキュラムマネジメントの役割と位置

教育委員会によるカリキュラムマネジメントの役割は、学習指導要領にもとづく教育課程編成等の考え方、方向を規定することや授業改善等、研究授業、緊急対応などの要請に対して指導助言をする支援がある。田村(2022)は、教育委員会が学校の子どもの学びを学校、教員とともにマネジメントしていくといった当事者意識のあるカリキュラムマネジメントの協働スタイルが望ましいことを指摘している(図3)。

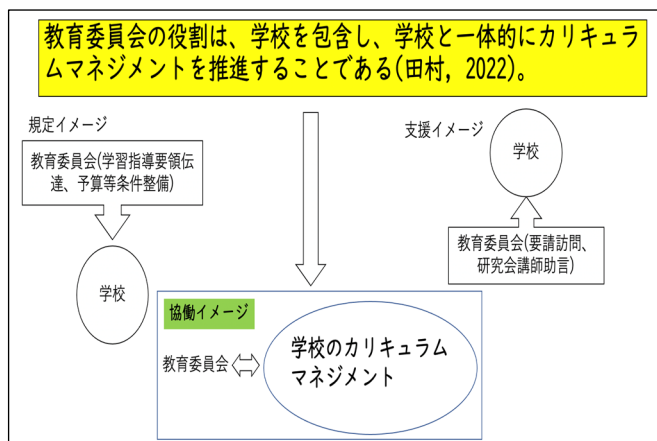


図3:カリキュラムマネジメントの学校と教育委員会との協働イメージ

出典:田村(2022)より、図は筆者が作成

## 4. カリキュラムマネジメントにおける学校と教育委員会の連携協働

本章では、カリキュラムマネジメントにおける学校、教育委員会それぞれの役割を踏まえ、この二つの組織の連携協働を考察していく。

### (1) カリキュラムの4つの側面とカリキュラムマネジメントにおける学校と教育委員会との役割の連動

前章にて紹介した田村(2022)の協働イメージに従うと、教育委員会のカリキュラムマネジメントにおける役割として示唆的であるのが、カリキュラムを4つに分類し、その連動を指摘した熊田・秋田(2017)<sup>17)</sup>の整理である。

熊田・秋田(2017)は、計画段階だけではなくカリキュラムを4つの側面に分類し整理している。そして、この4つの側面がそれぞれ連動していることが制度として効果的であることを指摘している(図4)。

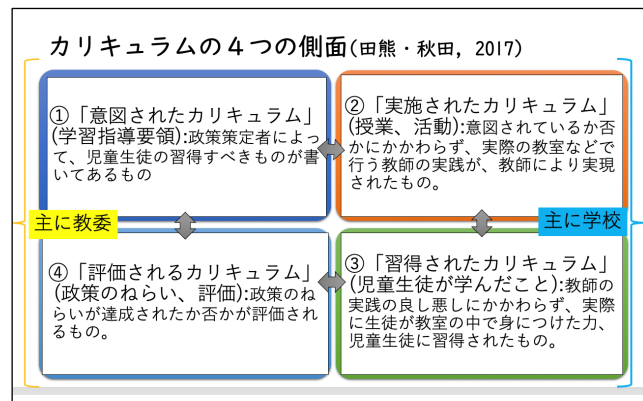


図4:カリキュラム4つの分類と連動のイメージ

出典:熊田・秋田(2017)より、図は筆者が作成

そして、熊田・秋田(2017)は「ニュージーランドを例に、優れた学校と教育行政との連携協働について、カリキュラムの連動をもとに以下のように説明している。

「ニュージーランドでは、『意図されたカリキュラム(ナショナルカリキュラム)』を、生徒の学習の方向を決定し、学校がカリキュラムを策定して検討する際の指針になるようにしている。そして、『実施されたカリキュラム』である教師の実践を生徒にとって良い学習の機会とするため、『学習のための指導』や『手引き』という教員サポートの材料もカリキュラムの一貫として作成されている。『意図されたカリキュラム』を最も効果的に実施できるように、教師の教え方を支援することによってカリキュラムが達成されるように、特定の学習領域における主要能力と生徒の成果をモニタリングする形成的評価に役立つツールが付加されている。さらに、『習得されたカリキュラム』との連動を確保するため、生徒の説明や例、語りなどの豊富な手法を使って生徒の成長を記録している。これら記録が生徒と教師の『真の評価』として役立つようにどのツールをいつ使うのか、学校や教師が決めることができるようになっている。そして、十分な情報を持ってこれら決定ができるように色々な具体例を紹介している。」とある。

このような学校と教育行政との連携協働をカリキュラムの連動をもとに示したのが図5である。その特徴は、上述した教育委員会から学校へ図5中の中央の矢印で示されている「教え方や道具の使い方」などを提示することである(図5)。

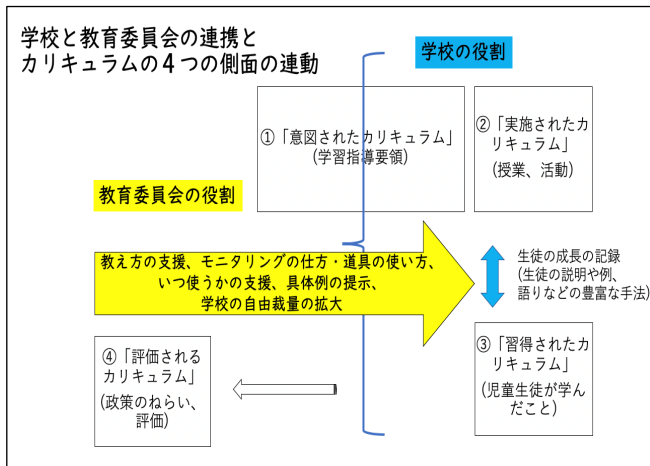


図 5: 学校と教育委員会の連携とカリキュラム4つの側面のイメージ

出典: 熊田・秋田(2017)より、図は筆者が作成

## (2) 教育委員会による学校とのカリキュラムマネジメントの連携協働の具体例

前節の「教え方の支援、モニタリングの仕方・道具の使い方、いつ使うかの支援、具体例の提示、単元のつながり」などカリキュラムマネジメントにおける学校と教育委員会との連携協働の実践を教育委員会による授業支援の実際に特化し、具体例を用いて本節で述べる。

以下で示す図 6-1、6-2、6-3、6-4 は小学校算数科4年生の単

元「平行四辺形 台形 ひし形」の授業改善における前後の具体的な例示である(茂野, 他, 2012)<sup>18)</sup>。

左下図 6-1 では、作図を行う上で、これまでの知識・技能に偏った授業の運営改善の視点が「Before」として示されている。そして、単元・授業改善の観点として小学校1年生から中学校3年生までの学習内容のつながりと小学校4年生の学習内容の現在の位置が示されている。

下図 6-2 では、現在小学4年生の学習内容と小学5年生、6年生との学習内容とのつながりが具体的な板書例として示されている。

**A 既習の基本図形との関連を図った平行や垂直の指導……「既習とつなげる」**

子どもたちは第2学年で正方形、長方形について学習してきており、平行や垂直についての理解の基礎となる経験をしてきている。そこで、本単元では既習の長方形との関連を図り、子どもたちが平行や垂直という辺の位置関係に目を向けることができるようにする。

具体的には、既習の長方形との関連を図るために、割り箸を使った教具を用いて長方形から平行四辺形に変形させ、さらに頂点を動かすことで、台形、ひし形と図形を動的に変形させていく。その中で、子どもたちが変わるところと変わらないところに着目し、平行や垂直という本単元で学習する辺の位置関係に関する図形の見方に気付くとともに、既習の図形についてのより深い理解ができるようにする。

**長方形** → **平行四辺形** → **台形** → **ひし形**

長方形と関連させながら平行四辺形を学習する。  
長方形をより深く理解することができる。

平行四辺形と関連させながら台形を学習する。  
平行四辺形をより深く理解することができる。

平行四辺形や台形と関連させながらひし形を学習する。  
平行四辺形や台形をより深く理解することができる。

**イ 作図を通した基本図形のより深い理解と、新しい図形の見方の素地的経験……「後の学習とつなげる」**

子どもたちはこれまでに作図の学習を通して、合同な図形の素地的経験をしてきている。例えば、第3学年で学習するコンパスを用いた正三角形や二等辺三角形の作図は、「三つの辺の長さがそれぞれ等しい」という三角形の合同条件を用いて作図をしている。また、第4学年で学習する三角形の二つの辺の長さとその両端にある二つの角の角度を測って作図する方法は、「一つの辺の長さとその両端の角の大きさがそれぞれ等しい」という三角形の合同条件を用いている。つまり、合同の指導は第5学年で行われるが、子どもたちは作図の学習を通して、合同の素地的経験をしているのである。

本単元においても、平行四辺形の作図を通して図形の意味や性質についての理解を深めるとともに、第5学年「合同な図形」や第6学年「線対称、点対称」の理解のための素地的経験をするようにする。

**第5学年「合同な図形」の素地的経験**

向かい合う二組の辺の長さは等しい  
向かい合う二組の辺が平行  
向かい合う一組の辺が平行で長さが等しい

作図に使われている三角形の合同条件  
「三つの辺の長さがそれぞれ等しい」

作図に使われている三角形の合同条件  
「一つの辺の長さとその両端の角の大きさがそれぞれ等しい」

作図に使われている三角形の合同条件  
「二つの辺の長さとその両端の角の大きさがそれぞれ等しい」

**第6学年「線対称、点対称」の素地的経験**

三角形ABCと形も大きさも同じ三角形(合同な三角形)を「まわす」(回転移動すると)、平行四辺形ができる。

図 6-2: 小学5、6年生と学習内容のつながりの板書例

**算数科【小学校第4学年】**

**平行四辺形 ひし形 台形**

➡(前) p.69  
➡(中) p.65  
➡(後) p.72

**◎こんな授業になっていませんか?**  
平行四辺形、ひし形、台形など基本図形の意味や性質、作図の仕方を形式的に覚えることで終わってしまう。

子どもたちは平行四辺形、ひし形、台形など基本図形の意味や性質、作図の仕方について形式的に覚えている傾向が見られます。  
図形の学習では、観察や構成などを通して、その学年に応じた観点で図形を見る見方を身に付け、基本図形についてより深い理解をすることが大切です。  
そこで、学習内容の系統性を確認し、既習の関連を図った上で、上学年の学習の素地的経験を計画的に位置付けたりすることで、図形の学習をつなげ、子どもたちが図形についての理解を深めることができるように授業改善を図ります。

**◎こんな授業に変えてみませんか?**  
図形の学習を「つなげる」ことで、図形についてのより深い理解を図る授業にしたい。

**単元づくりのポイント**

- 既習の基本図形との関連を図った平行や垂直の指導……「既習とつなげる」
- 作図を通した基本図形のより深い理解と、新しい図形の見方の素地的経験……「後の学習とつなげる」

**図形指導の系統性をとらえる……「つながり」を確認する**

**本単元で身に付ける力**

領域	内容	学習のねらい	学習の過程	学習の成果
知識・技能	平行四辺形、ひし形、台形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。
思考・判断・問題解決	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。
コミュニケーション	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。	図形の性質や特徴を理解し、作図ができるようになる。

図形の学習では、第3学年で「直角」、第4学年で「等しい長さ」、第5学年で「平行や垂直など直線の位置関係」、第6学年で「合同」、第7学年で「対称、拡大図・縮図」というように、新しい観点で図形を見る機会とともに行われている。このように図形に新たな観点で図形を見ることを通して、図形の見方を身に付け、基本図形についての理解をより深いものにしていく過程が大切である。

図形学習では、平行や垂直という直線の位置関係に着目した図形の見方を身に付け、図形についての理解を深めることがねらいである。そこで、これまで学習してきた図形の見方を見直し、平行や垂直に着目した図形の見方の指導を行うことが大切である。また、平行四辺形、ひし形、ひし形など基本図形についてより深い理解をすることを通して、図形の新しい見方についての素地的経験をすることができるようにする。

**図形力及び学習の基礎的能力の育成**

- 素地的・基本的な算数・数学の知識及び技能を確実に身に付けます。  
9年間を視野に入れて、算数科、数学科の学習内容を整理し、系統立てて学習できるようにします。
- 既習の図形について新しい観点で指導する。  
[長方形や正方形も、ひし形や平行四辺形の図形]とつながり

図 6-1: 授業改善の方針と他学年との学習内容のつながり

**指導計画を立てる**

目 標

C(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形について理解を深める。  
ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。  
イ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。

**指導計画**

時	指導内容
(1)(2)	平行・垂直の意味と性質
(3)	平行四辺形の意味と性質
(4)(5)	垂直、平行の作図
(6)	知識・技能の定着
(7)	台形の意味と性質
(8)	ひし形の意味と性質
(9)	平行四辺形の作図の仕方
(10)(1)	台形、ひし形の作図の仕方
(12)(3)	対角線の意味と三角形の対角線の考察
(14)	図形についての見方や感覚（数え詰め）
(15)	知識・技能の定着

授業改善のポイント

- 「既習の長方形とのつながりをもたせながら、平行や垂直に関する学習できるようにする。」
- 「これまでの作図経験とのつながりをもたせることにより、基礎固めのより深い理解を通して学年での漸進的経験をさせる。」

**授業の実践**

第1時・第2時 平行・垂直の意味と性質  
第1時：図形を変形してできた図形を観察し、変わるとうち変わらないところを調べ、平行や垂直の意味について理解する。

1 長方形→平行四辺形へ変形させてきた図形を観察する。

「あっ変わった！」

2 変わるところと変わらないところを調べる。

「角の大きさは変わったけど、向かい合う角の大きさは長くなるって思うよ」「長い方が向かい合う角は直角で、大きさが等しくなっているよ」

(変わるとうち)

- 形が変わった。
- 4つの角がみな直角ではなくなる。
- 角イと角エは $60^\circ$ になった。
- 角アと角ウは $120^\circ$ になった。

(変わらないところ)

- 辺の長さは変わらない。
- 向かい合う辺はまっすぐなまま。
- い合う辺は直線。
- 向かい合う角の大きさが同じ。

3 位置関係を変化していないことを、既習の長方形と比較しながら説明する。

「辺アエと辺イウと辺オ方は、平らになっているみたいだね」  
「辺オ方は辺エウと直交に交わっているよ」  
「辺アエ、辺イウも辺エウと直交に交わっているよ」

4 平行、垂直の用語を理解し、長方形について見直す。

直角に向き合う2本の直線は垂直であるといふ、1本の直線に垂直な2本の直線は平行であるといふ。

[長方形は向かい合う二組の辺が平行な四角形だね]  
[長方形は隣り合う辺が垂直になっているね]

既習とつなげる。

- 「割り算を使った教具を全員に用意する。」
- 「長方形の意味や性質などを学ぶ。」
- 「変わるとうち変わらないところを調べてまとめる。」
- 「長方形と平行四辺形を比較することを通じて、既習事項について理解する。」
- 「平行と垂直という観点で長方形を見直すことで、既習の長方形についてより深い理解を図る。」

図 6-3: 小学4年生の単元指導計画と教具と指導の例

**授業改善の着眼点**

- 「二つの辺の長さとその間の角の大きさがそれぞれ等しい」という条件を三角形の作図の素地の経験をする。
- 「頂点Dをどのように決めるか」という問題に焦点化する。
- 作図やその仕方の説明を通じて平行四辺形の意味や性質の理解を深める。
- 対角線で分けられた三角形の面積を比べることで、第5学年「合同」、第6学年「証明対、点対称」の理解の素地の経験をする。

**単元をつくる**

**授業改善の着眼点**

- 「二つの辺の長さとその間の角の大きさがそれぞれ等しい」という条件を三角形の作図の素地の経験をする。
- 「頂点Dをどのように決めるか」という問題に焦点化する。
- 作図やその仕方の説明を通じて平行四辺形の意味や性質の理解を深める。
- 対角線で分けられた三角形の面積を比べることで、第5学年「合同」、第6学年「証明対、点対称」の理解の素地の経験をする。

**平行四辺形の性質**

●既習の基本図形との関連を回った平行や垂直の指摘

●作図を通した基本図形のより深い理解と、新しい図形の角の素地の経験

●平行四辺形が変わる・子どもが変わる

●既習の基本図形との関連を回った平行や垂直の指摘

●作図を通した基本図形のより深い理解と、新しい図形の角の素地の経験

●平行四辺形が変わる・子どもが変わる

図 6-4:実際の板書計画と授業改善の結果の見通し

## 5. おわりに 展望にかえて

これまでの本稿の議論から、学校がカリキュラムマネジメントの主体性を発揮できるよう、教育委員会の役割としては、様々な財や人、組織をつなぐ支援が重要であると考えられる。前章で紹介した具体的な教科・領域の単元指導・授業改善の例示は確かにカリキュラムマネジメントを各学校が進めていく上で大いに参考になる財となるであろう。しかし一方で、教育委員会からの一方通行的な例示を行うだけのカリキュラムマネジメント支援となってしまうことも危惧される。

そこで、学校と教育委員会とがカリキュラムマネジメントについて対等な関係のもと、お互いに教材のアイデアや実践における成功体験や困り感などをフラットに共有し、さらにその共有を他校も取り込んでいくような共有の輪を広げる仕組みが必要であろう。そして、教材や指導・評価計画、カリキュラムマネジメントの実践について前章の例のような書籍や書面だけではなく、データ化することで学校と教育委員会がより円滑にカリキュラムマネジメントを推進していくことが予想される。そのためには、情報のやり取りや知恵の共有について対話を通して、学校と教育委員会がいつでも、大量に行えるようなプラットフォームが今後、カリキュラムマネジメントの推進においても活用されていくものとする。以下の図7はそのようなプラットフォーム構想の一例である。

そこで、学校と教育委員会とがカリキュラムマネジメントについて対等な関係のもと、お互いに教材のアイデアや実践における成功体験や困り感などをフラットに共有し、さらにその共有を他校も取り込んでいくような共有の輪を広げる仕組みが必要であろう。そして、教材や指導・評価計画、カリキュラムマネジメントの実践について前章の例のような書籍や書面だけではなく、データ化することで学校と教育委員会がより円滑にカリキュラムマネジメントを推進していくことが予想される。そのためには、情報のやり取りや知恵の共有について対話を通して、学校と教育委員会がいつでも、大量に行えるようなプラットフォームが今後、カリキュラムマネジメントの推進においても活用されていくものと考えている。以下の図7はそのようなプラットフォーム構想の一例である。

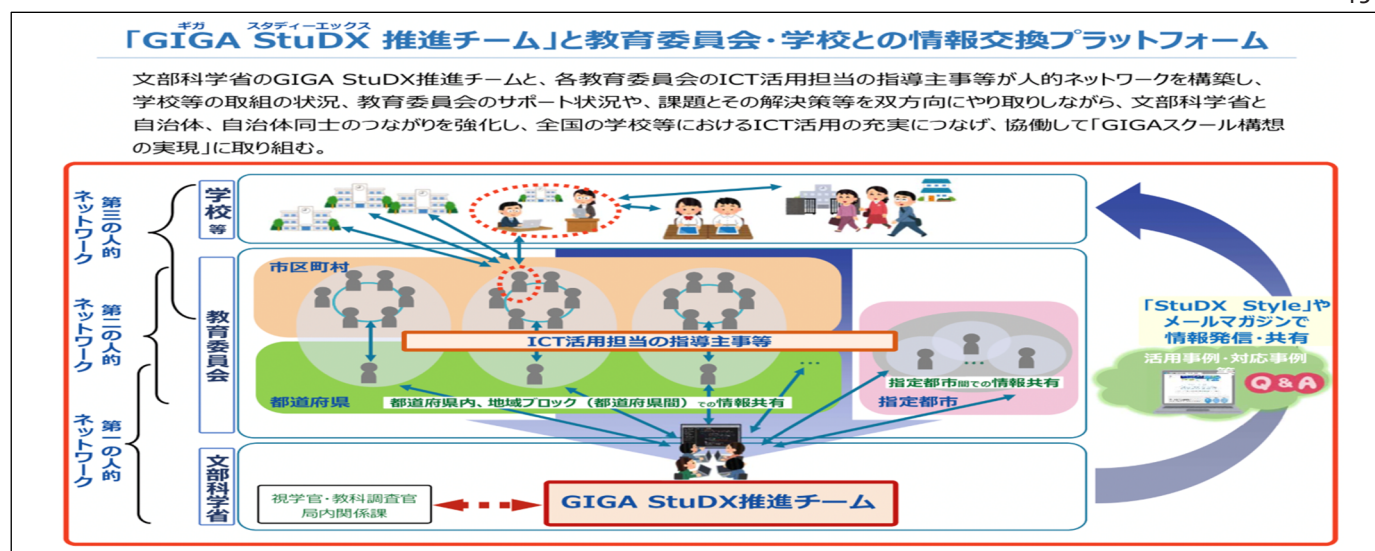


図7:学校と教育委員会とのプラットフォーム構想の例  
出典:文部科学省(2021)<sup>19)</sup>「GIGA StuDX 推進チームの取組について」令和3年6月28日 第124回教育課程部会資料2-2([https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt\\_kyoiku01-000016453\\_2-2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_kyoiku01-000016453_2-2.pdf))より

カリキュラムマネジメントにおける学校の主体性が発揮できる環境設定として、上述したような教育委員会とのプラットフォーム構想は有効な手段となり得るだろう。さらに、これを一歩進めて、学校、教育委員会のみならず、保護者、地域住民、大学、NPO法人等様々な関係者、関係機関など、産・学・公の組織の枠を超えた連携協働がカリキュラムマネジメントの推進には必要となるであろう。そして、その連携協働は逆の見方をすれば、カリキュラムマネジメントの推進を通じたカリキュラムマネジメントの目的である学校の教育活動の質向上を図るための教育制度・組織を越えた「つながり」の強化になることが期待されるといえる。

## 註1)

カリキュラムマネジメントの表記について、カリキュラムとマネジメントを一体とするこれまでの研究上の意図があることから「カリキュラムマネジメント」と表記し、行政文書における「カリキュラム・マネジメント」の表記とは本稿では、適宜使い分けて表記している。

## 引用文献

- 1) 文部科学省(2018a)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社
- 2) 文部科学省(2018b)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東山書房
- 3) 文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』東洋館出版社
- 4) 根津朋美(2019)『最新教育キーワード155のキーワードで押さえる教育』時事通信社, pp.8-11
- 5) 中央教育審議会(2003)「初等中等教育における当面の教育

- 課程及び指導の充実・改善方策について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/03100701.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/03100701.htm), (2023年9月2日取得)
- 6) 中央教育審議会(2008)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/information/20230210-mxt\\_kouhou02-1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/information/20230210-mxt_kouhou02-1.pdf), (2023年9月2日取得)
  - 7) 中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_ics/Files/afildfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_ics/Files/afildfile/2017/01/10/1380902_0.pdf), (2023年9月2日取得)
  - 8) 文部科学省(2018a) 前掲書
  - 9) 文部科学省(2018b) 前掲書
  - 10) 文部科学省(2019) 前掲書
  - 11) 石井英真(2020)カリキュラム・マネジメント再考. 九州教育経営学会研究紀要, 26, pp.7-14
  - 12) 文部科学省(2018a) 前掲書
  - 13) 文部科学省(2018b) 前掲書
  - 14) 文部科学省(2019) 前掲書
  - 15) 高階玲治(2005)『シリーズ・学校力1 学校を変える「組織マネジメント」力』ぎょうせい
  - 16) 田村知子(2022)『カリキュラムマネジメントの理論と実際』日本標準
  - 17) 田熊美保・秋田喜代美(2017)『(岩波講座)教育 変革への展望5 学びとカリキュラム』岩波書店, pp.273-309
  - 18) 茂野賢治, 他(2012)『授業改善ガイド 単元づくり編』ぎょうせい, pp.58-61
  - 19) 文部科学省(2021)「GIGA StuDX 推進チームの取組について 令和3年6月28日 第124回教育課程部会資料2-2」  
[https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt\\_kyoiku01-000016453\\_2-2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_kyoiku01-000016453_2-2.pdf), (2023年9月2日取得)